



高校野球から学んだこと

坊主頭ではない 高校球児

大人になってから、何かと忙しく、夏に高校野球を観て楽しむという習慣が無くなっ



ていた私なのですが、今年の夏はネットの記事をきっかけに準々決勝あたりから高校野球が楽しみにになりました。その記事は今年の高校野球で全国優勝を果たした

慶應義塾高校野球部に関する雑誌の記事「[「坊主頭自体は問題ではない」髪型自由主義、慶応監督が語る“坊主頭”本当の問題点「昔からこれが当たり前」という“思考停止”こそ罪深い](#)」 - 高校野球 - Number Web - ナンバー (bunshun.jp) です。私は最近の高校球児（「球児」という言い方も慶応高校野球部の森林監督は否定していますが）は坊主頭でない生徒もいるんだということすら知らなかったのが、驚いて読みはじめたのですが、森林監督の野球の指導に対する考え方が「教育者」として筋が通っており、常に「今」だけでなく「将来の彼ら」の姿をイメージしているところにとっても共感したのです。そして、更にその高校が優勝してしまったことに時代の変化を感じたのでした。

社会に出てから のため



森林監督は、「(野球の指導は)高校野球のためではなく社会に出てからのため」と言います。「野球から離れたときにきちんと勝負できる人間になっていることが大切」と言います。そして、「(高校で野球をすることが)選手が大人になり社会に出ていくための準備であるという視点で捉えている」と言います。なので、野球界や高校野球でしか通用しないことは教えこむつもりはなく、「ちわ!」「した!」などの高校野球の世界で頻繁に使われる挨拶も禁止にしていると言います。このように、「この生徒たちが「社会に出たら」という視点で指導することはとても大切だと思います。

また、「自分を客観視できること。自分なりのアイデアを持ち、自分自身の強みを知っていて、それを伸ばす努力ができる人は、社会に出てどんな仕事に就こうとも通用します。」と言い、更に「自分で自分の幸せを理解していることも大事」と言います。多様性の時代

自分を知る

であり、たくさんの価値観がある時代にネットの情報を覗けば、様々な意見があり、様々な生き方があり、自分より素敵な生活、自分より賢い生き方、自分より多くの富を持つ人等の情報があふれ、他人との比較をしているときりがありません。幸せはなかなか感じられません。そんな中、自分の幸せの基準を持つことが必要なのだと言います。高校生のうちに「自分なりの価値観」「考え方の物差し」があることが将来の活躍や幸せにつながります。また、そういった考え方を広げたり深めたりするためにも、学校での勉強も必要なのだと思います。

自分の頭で考える

森林監督は普段から選手に対し「どう思っている」「どうしたいの」「なぜ、今はそのプレーを選択したの」とプレーの結果を褒めたり、叱ったりするのではなく意図を聞くそうです。自分で「考える」「意見を持つ」「理解する」作業を繰り返し行うそうです。それによって、主体性のある動きになり、サインをただ待つよりも、自分の考えと一致したサインであれば素早く反応でき、自分の頭で考えたプレーであれば、よりよいプレーとなると言います。この「自分の頭で考える」大切さは7月のアドバイザー通信でご紹介した、元千代田区立麴町中学校の校長工藤勇一先生と哲学者、教育学者の苦野一徳先生の対談集『子供たちに民主主義を教えよう』や『バカの壁』の養老孟司先生も『子供が心配』という著書の中でも言っています。



こういった考え方は、野球に限った話ではないということはお分かりかと思いますが、発達障害や知的障害のある生徒でも同じだし、不可能ではありません。その生徒なりの将来の姿をイメージし、どん

障害があってもなくても

な生徒に対しても私たち教師は生徒の将来のためになる指導を考え続け、生徒自身が自分の得意なことや不得意なことなど、自分のことをよく知ったうえで、できることを増やし、できないことは工夫をしたり誰かと一緒にしたりすることでできるようにする。そして、自分は何が好きなのか、何を幸せと感じるのか、どんなに障害が重くても、これがはっきりしている生徒は強いです。そのために頑張れます。自分で考えます。自分で考えて決めたことはうまく行っても失敗しても、人のせいにせず、次の成功のためにまた考えます。そんな指導ができればいいなと高校野球を通して、この夏考えさせられたのでした。

【参考・引用】 森林貴彦『Thinking Baseball—慶應義塾高校が目指す”野球を通じて引き出す価値”』東洋館出版社

群馬県立館林高等特別支援学校 専門アドバイザー 中島 里美
〒374-0046 群馬県館林市上三林町197番地
Tel 0276-71-1000
mail : kankoutoku-snes@edu-g. gsn. ed. jp
ホームページ : <https://kankoutoku-ses. gsn. ed. jp>

電話相談、メール相談、
来校相談、訪問相談、
受け付けています。
お気軽にどうぞ。

